

2019年度(2020年3月期)決算の概要

数字は原則として単体ベース、単位未満切捨て



1	決算ダイジェスト	P.1
2	決算トピックス ① 貸出	P.2
	② 事業性融資先数	P.3
	③ 収支状況	P.4
	④ 受入手数料	P.5
	⑤ 預かり資産	P.6
	⑥ 本業収益	P.7
3	2020年3月期 損益状況	P.8
4	貸出	P.9
5	預金(NCDを含む)・預かり資産	P.10
6	有価証券	P.11
7	健全性	P.12
8	2020年度(2021年3月期)の決算予想	P.13
9	SBIグループとの連携	P.14、15
	① 福島銀行バンキングアプリ	P.16
	② 福島銀行SBIマネープラザ郡山	P.17
	③ クラウド型ワークフローシステム「承認Time」	P.18
	④ SBIレミットとの海外送金サービス	P.19
10	2019年度の主な取り組み ①、②	P.20、21
11	当行のプロフィール	P.22

1. 決算ダイジェスト

損益状況

～ 増収増益 ～

銀行単体	20/3期	19/3期比
経常収益	113.7億円	+4.9億円
経常利益	4.0億円	+1.0億円
当期純利益	3.5億円	+0.2億円

～ 増収減益 ～

連結	20/3期	19/3期比
経常収益	134.7億円	+6.5億円
経常利益	4.9億円	▲0.2億円
当期純利益	4.0億円	▲1.1億円

財務状況

銀行単体	20/3期	19/3期比
自己資本比率	7.89%	▲0.41%
金融再生法開示債権比率	1.79%	▲0.23%

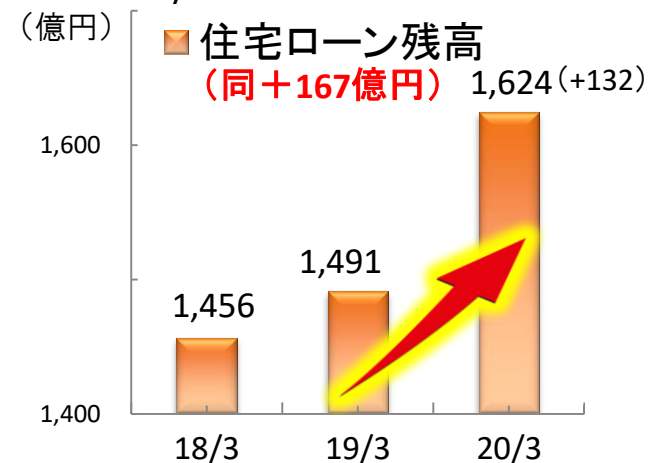
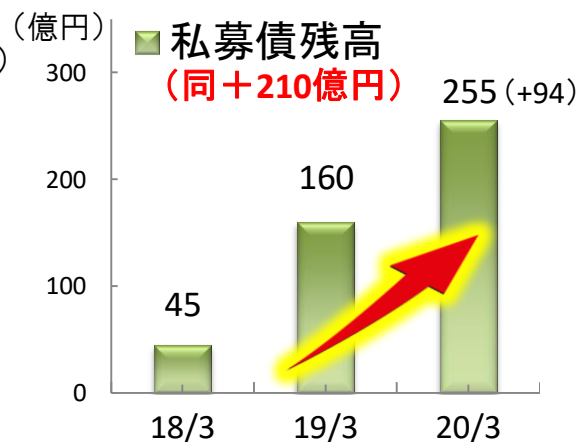
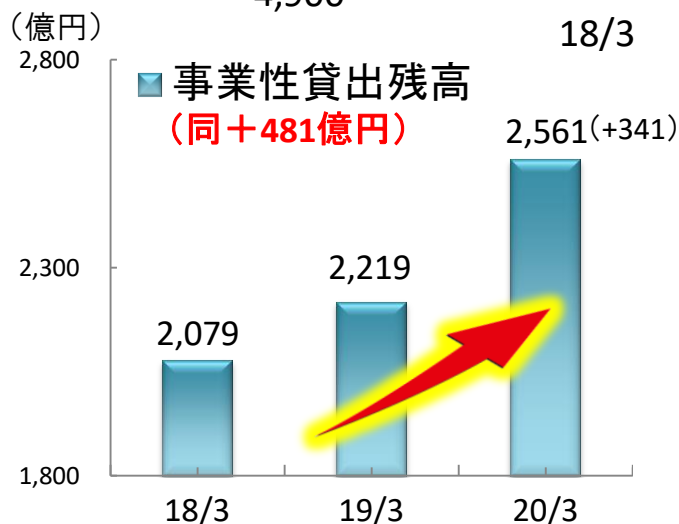
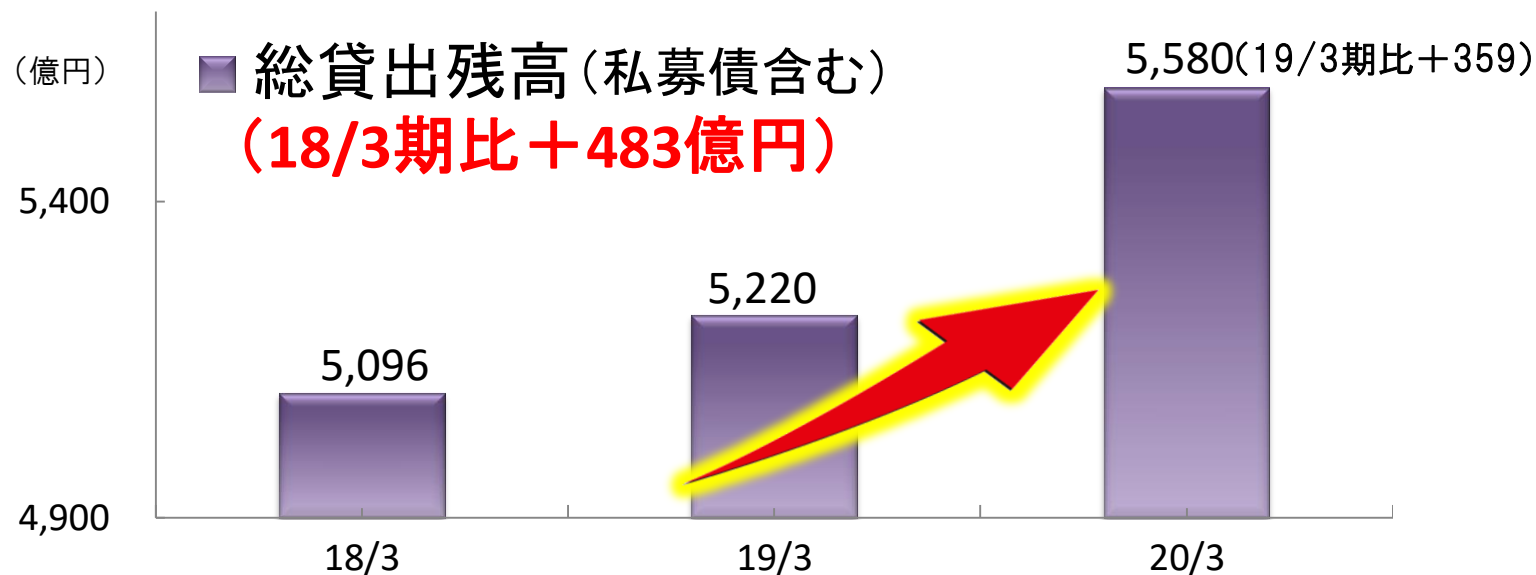
連結	20/3期	19/3期比
自己資本比率	8.30%	▲0.43%

配 当

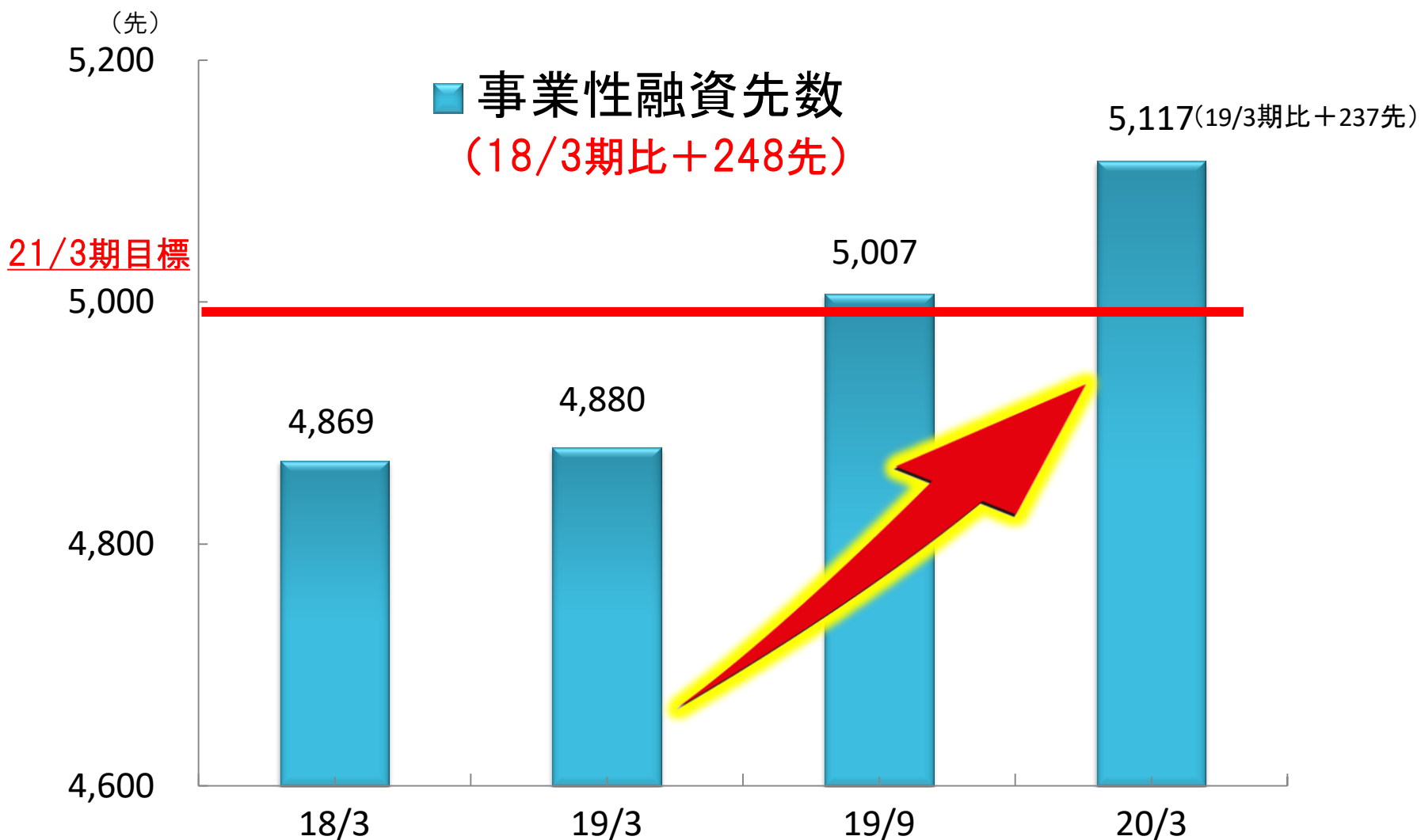
	20/3期	19/3期
1株当たり	年2円	年2円

2. 決算ピックアップ ① 貸出

- 総貸出残高(私募債含む)は、5,580億円(18/3期比+483億円)。
- うち事業性貸出残高は、2,561億円(同+481億円)。うち私募債残高は、255億円(同+210億円)。
- うち住宅ローン残高は、1,624億円(同+167億円)。

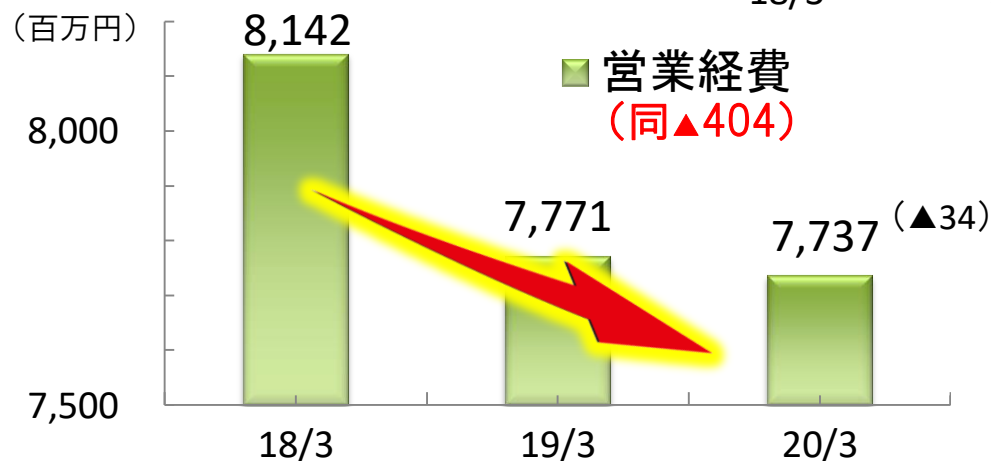
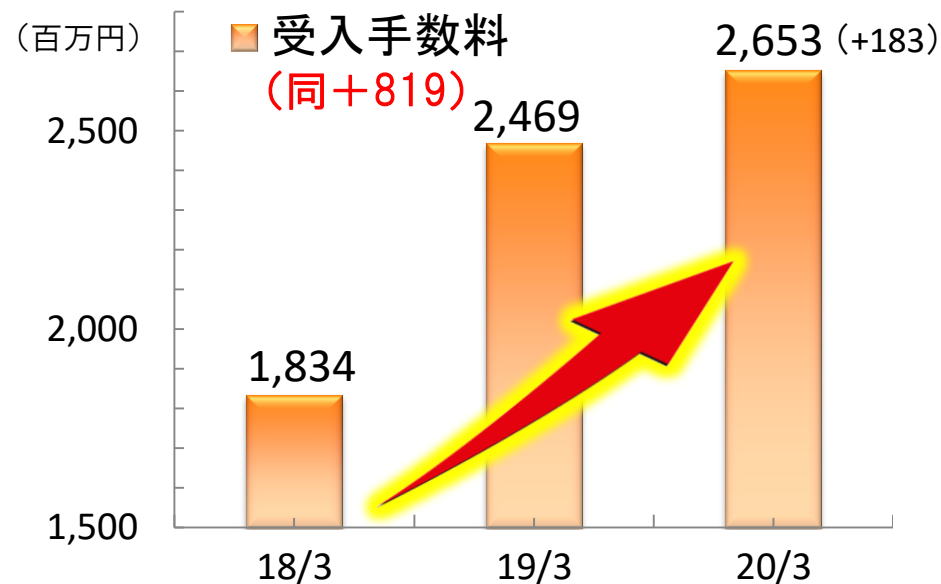
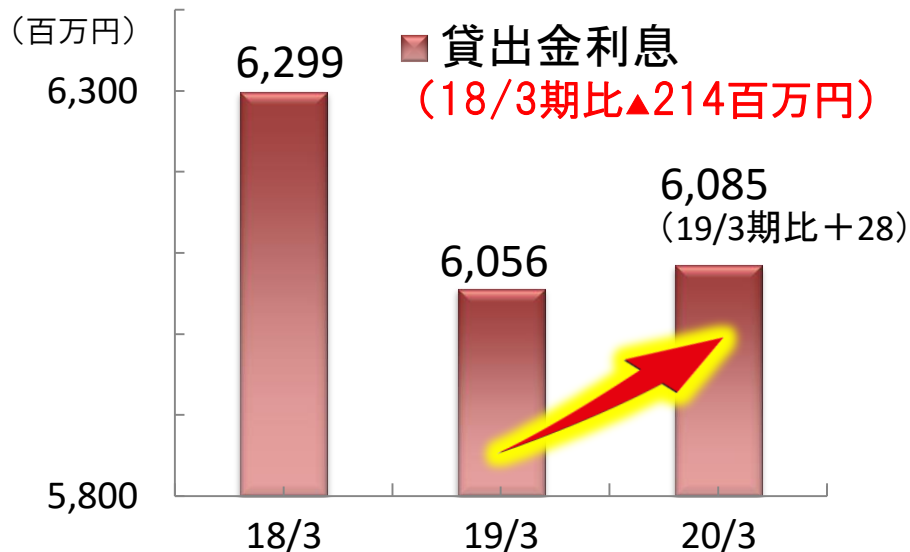


- 事業性融資先数は、5,117先(18/3期比+248先)。
- 中期経営計画で目標とする5,000先を1年半前倒しで達成(目標比+117先)。



2. 決算トピックス ③ 収支状況

- 貸出金利息収入は、6,085百万円(18年3月期比▲214百万円)。貸出金利息が前年度を上回るのは08年3月期以来、12年振り。
- 受入手数料は、2,653百万円(同+819百万円)と過去最高。法人・個人手数料ともに順調に増加。
- 営業経費は、7,737百万円(同▲404百万円)。物件費は4年連続で減少。



○ 受入手数料は、2,653百万円(18/3期比+819百万円)。

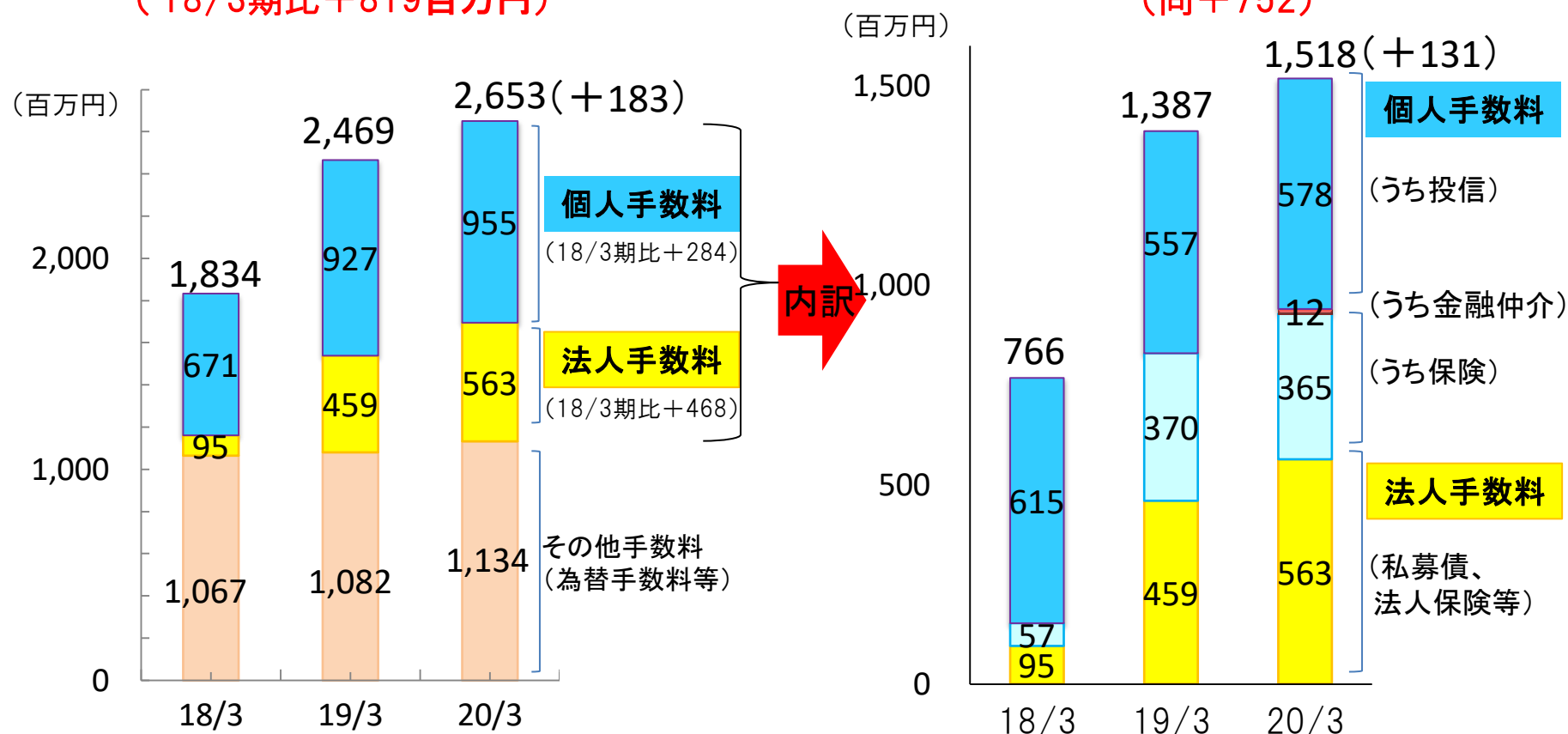
- ー うち個人手数料は、955百万円(同+284百万円)。生命保険が 365百万円(同+307百万円)増加。
- ー うち法人手数料は、563百万円(同+468百万円)。私募債、法人保険等の増加が主因。

受入手数料

(18/3期比+819百万円)

【うち法人・個人手数料】

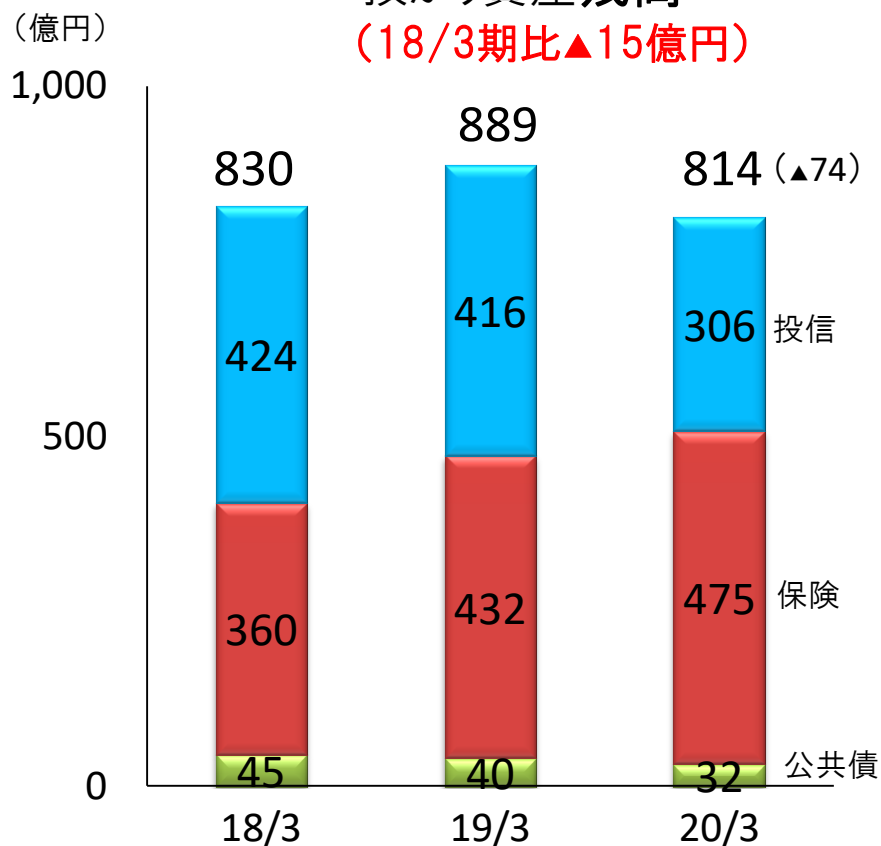
(同+752)



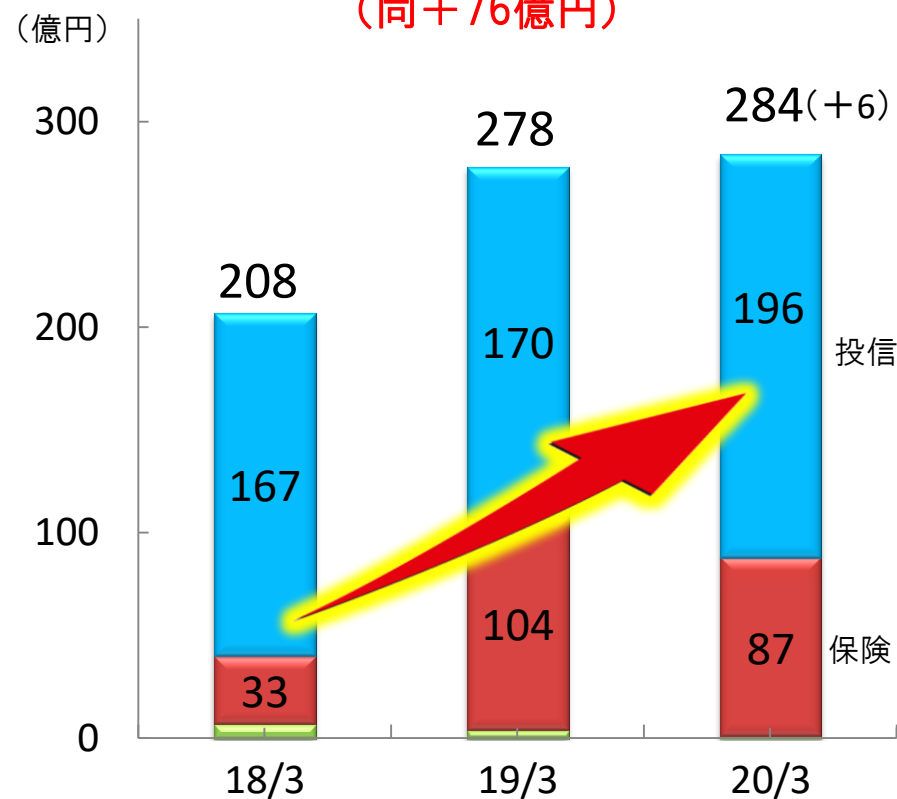
2. 決算トピックス ⑤ 預かり資産

- 預かり資産残高は、814億円(18/3期比▲15億円)。基準価格の下落により投信残高が減少。
- 預かり資産販売額は、284億円(同+76億円)。海外主要国の金利低下の影響により外貨建て保険販売が減少。

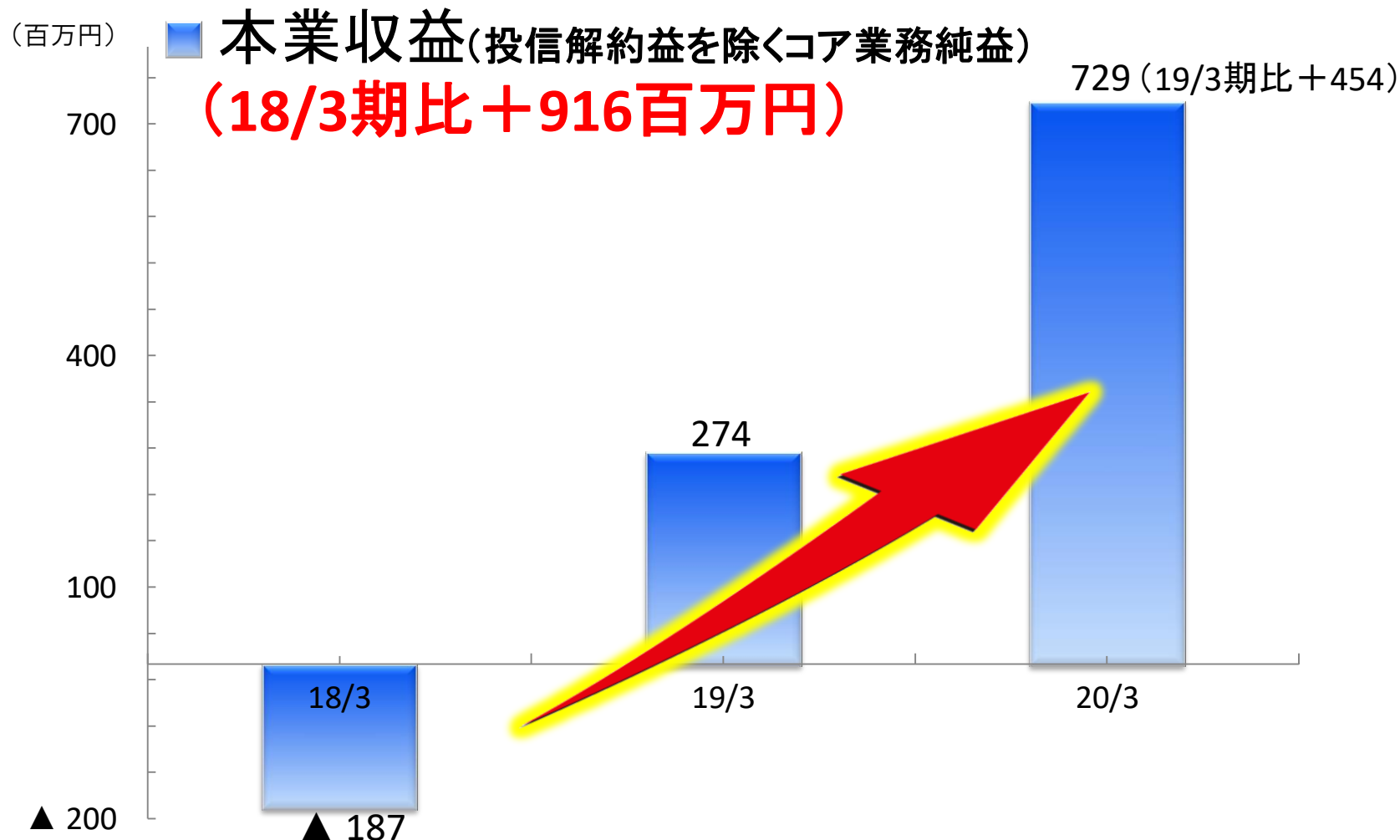
預かり資産残高
(18/3期比▲15億円)



預かり資産販売額
(同+76億円)



- 本業収益(投信解約益を除くコア業務純益)は、729百万円(18/3期比+916百万円)。
19年3月期に4年振りに黒字転換し、2年連続で本業収益は黒字化を達成。



3. 2020年3月期 損益状況

	(単位:億円)		
	2019年度 (2020年3月期)	2018年度 (2019年3月期)	前年度比
経常収益(①+⑦)	113.7	108.8	4.9
業務収益①	109	100	9
貸出金利息	60	60	0
有価証券利息配当金	13	12	1
(A)投信解約益	3	3	▲0
受入手数料	26	24	1
国債等債券売却益(債券関係益)②	8	2	6
業務費用③	101	98	3
預金利息	1	1	▲0
支払手数料	11	11	▲0
一般貸倒引当金繰入④	▲2	2	▲5
国債等債券償還損(債券関係損)⑤	14	5	9
営業経費	77	77	▲0
人件費	36	36	0
物件費	35	36	▲1
業務純益⑥(①-③)(金銭の信託見合費用除く)	7.9	1.8	6.1
(B)コア業務純益{⑥-(②-⑤)+④}	10.8	6.6	4.1
本業収益(投信解約益除くコア業務純益)(B)-(A)	7.2	2.7	4.5
臨時収益⑦	3	8	▲4
株式等売却益	0	3	▲2
償却債権取立益	1	2	▲0
臨時費用⑧	7	7	0
個別引当金繰入額	3	1	1
株式等売却損・償却	2	1	0
臨時損益⑨(⑦-⑧)	▲3	1	▲5
経常利益⑩(⑥+⑨)	4.0	2.9	1.0
特別損益⑪	▲0	0	▲0
法人税等⑫	0	0	0
当期純利益(⑩-⑪-⑫)	3.5	3.3	0.2

○ 2020年3月期は増収増益。本業収益は2年連続黒字化を達成。

○ 業務収益は109億円。前年度比 9億円の増収。

- 国債等債券売却益、受入手数料、有価証券利息配当金の増加が要因。
- 貸出金利息は、60.8億円と12年振りに前年度比増加(同28百万円)。
- 受入手数料は、投信販売手数料、私募債等法人手数料の増加により同1.8億円の増加。

○ 業務費用は101億円と、同3億円の増加。

- 一般貸倒引当金繰入は、引当率の低下により同▲5億円減少。
- 国債等債券償還損は、ロスカット等売却損の増加から同9億円の増加。
- 営業経費は、物件費の減少から同▲34百万円の減少。

○ 業務純益は7.9億円と、同6.1億円の増加。コア業務純益は10.8億円と同4.1億円の増加。

○ 本業収益(投信解約益を除くコア業務純益)は7.2億円と、同4.5億円増加し、2年連続黒字化を達成。

○ 経常利益は4億円と、同1億円の増益。

○ 当期純利益は中期経営計画の目標3億円に対し3.5億円と、0.5億円計画を上回る。

4. 貸出

○ 貸出残高(私募債含む)は5,580億円。前年度比+359億円(同+6.8%)の増加。

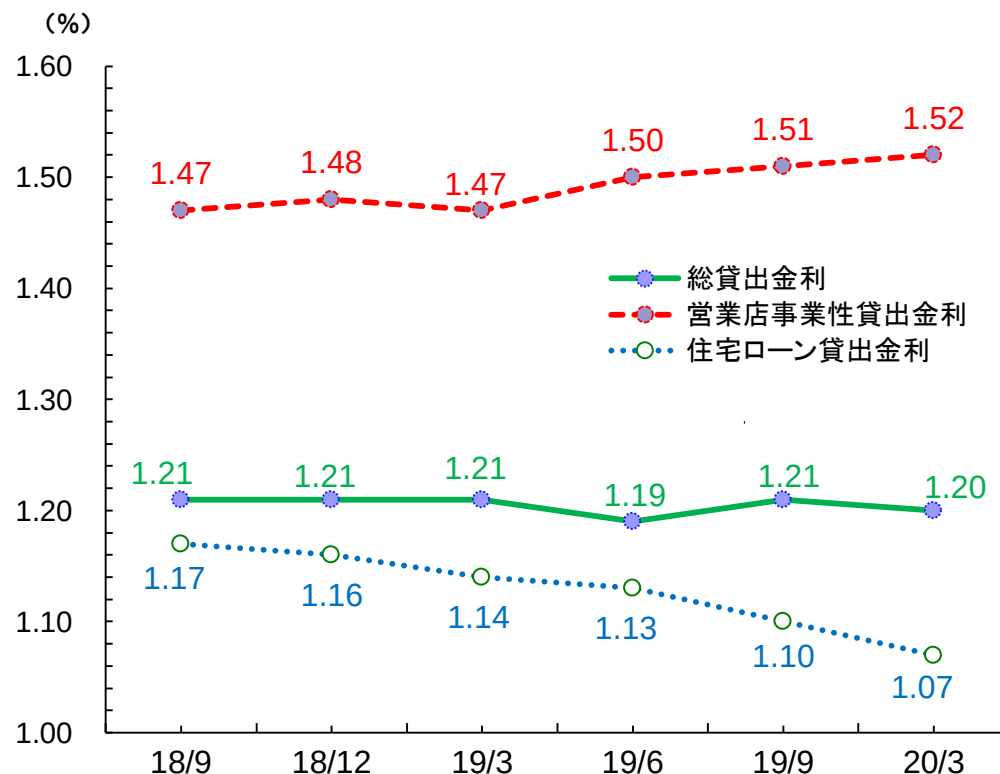
- 事業性貸出(私募債含む)は、中小企業向け貸出に注力し、同341億円増加。うち私募債は107億円受託し、同94億円増加。
- 消費性貸出については、住宅ローンの好調を背景に同123億円増加。
- 中期経営計画の数値目標にある事業性融資先数5,000先を大幅に上回り5,117先を達成。

○ 貸出平均約定金利は、住宅ローン実行金利の低下を主因に低下していたが、営業店事業性貸出金利が上昇傾向(同+0.05%)にあり、貸出金利回りは下げ止まりつつある。

○ 貸出(私募債含む)残高推移

	18/3	19/3	20/3	前年度比
事業性	2,079	2,219	2,561	341
相対型	1,813	1,820	1,998	177
(うち私募債)	45	160	255	94
市場型	265	399	563	164
消費性	1,766	1,797	1,920	123
住宅ローン	1,456	1,491	1,624	132
消費者ローン	289	286	278	▲7
総合口座貸越	20	18	17	▲1
地公体	1,047	1,018	935	▲82
その他	203	186	163	▲22
合 計	5,096	5,220	5,580	359
平 残	4,961	5,120	5,255	135
事業性融資先数	4,869	4,880	5,117	237

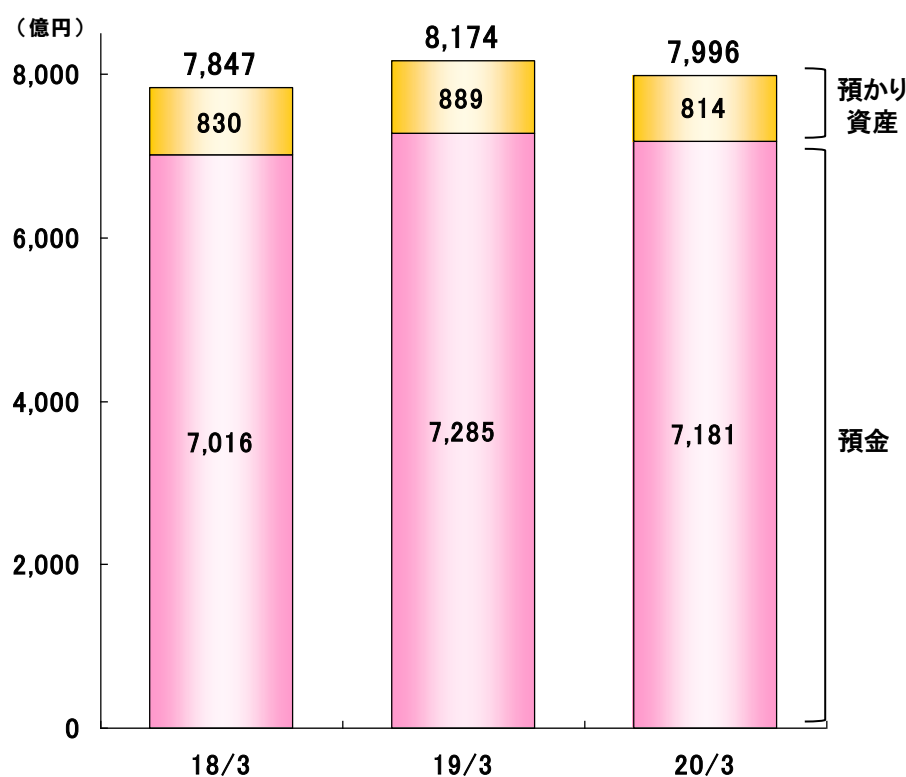
○ 貸出平均約定金利



5. 預金(NCDを含む)・預かり資産

- 預金(NCDを含む)と預かり資産を合計した総預かり資産残高は 7,996億円。前年度比 ▲178億円(同▲2.1%)の減少。
- 預金(NCDを含む)残高は 7,181億円。同 ▲103億円(同▲1.4%)の減少。
 - ー 個人預金は、賠償金の減少や相続による首都圏への流出等により 同26億円の減少。
 - ー 法人預金は、県内企業の堅調な業績を背景に同29億円の増加。
 - ー 金融機関預金は、同122億円の減少。

○ 預金 + 預かり資産残高推移



(億円)

		18/3	19/3	20/3	前年度比
預金	個 人	5,172	4,928	4,902	▲26
	一般法人	1,426	1,760	1,789	29
	地公体	382	429	445	15
	金融機関	35	166	44	▲122
	小計	7,016	7,285	7,181	▲103
預かり資産		830	889	814	▲74
合 計		7,847	8,174	7,996	▲178

6. 有価証券

- 有価証券の残高は1,201億円。前年度比 ▲170億円(同 ▲12.41%)の減少。
 - － 投資信託の残高が増加したものの、国内債券の残高の縮小が大きかったため有価証券残高は減少。
- 有価証券の評価損益は ▲40億円(ただし、4月末時点では▲ 33億円まで減少)。
 - － 新型コロナウイルスの感染拡大に伴う市場環境の悪化により投資信託を中心に評価損は拡大。
- 有価証券の運用利回りは1.01%。同+0.10%の上昇。
 - － 投資信託の利息配当金収入の増加に伴い、運用利回りは上昇。

○ 有価証券 残高推移

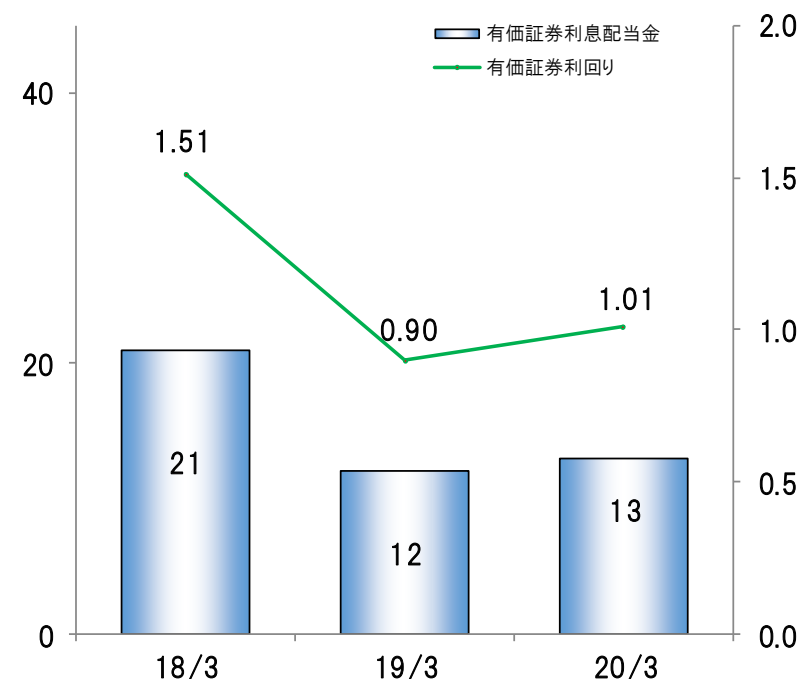
(億円)

	18/3	19/3	20/3	前年度比
債 券	703	689	498	▲191
国内債	665	634	461	▲172
外国債	37	55	36	▲18
投資信託	689	589	657	68
外債型	428	192	439	246
株式型	141	212	99	▲113
その他	118	184	118	▲65
株 式	53	46	33	▲12
そ の 他	7	47	12	▲34
合 計	1,454	1,372	1,201	▲170
保有有価証券の 評価損益	4	▲15	▲40	▲25
債券の デフレーション(年)	7.1	5.3	5.6	0.3

○ 有価証券利息配当金と有価証券利回り

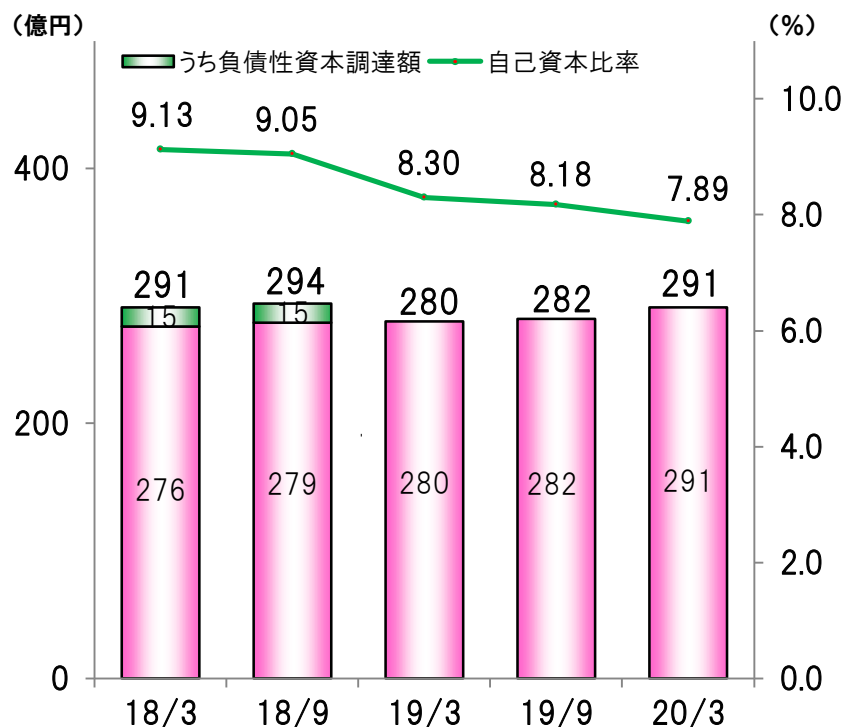
(億円)

(%)

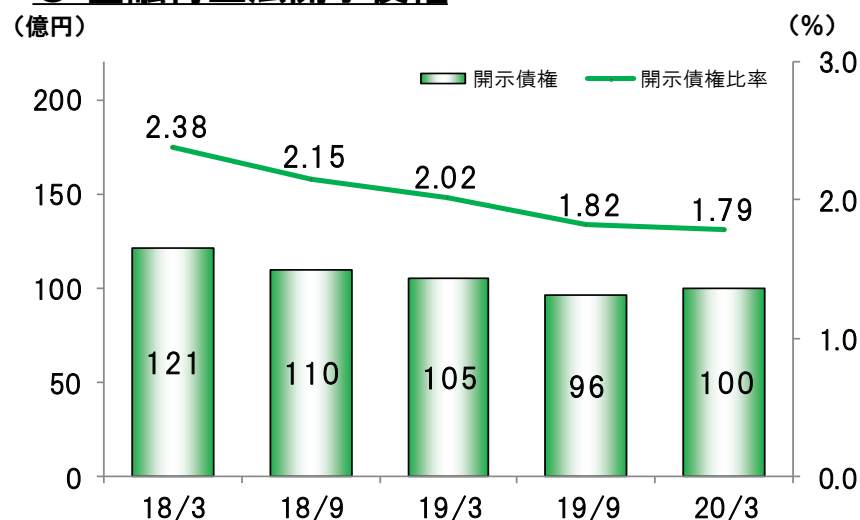


- 自己資本比率は貸出資産の増加により 7.89%(前年度比 ▲0.41%)と低下。国内基準(4%以上)を大幅に上回る水準を維持。
- 金融再生法開示債権は不良債権の償却、売却、返済回収により 100億円(同 ▲5億円の減少)。
- 金融再生法開示債権比率は 1.79%(同 ▲0.23%低下)と低水準を維持。
- 与信関連費用は、不良債権処理費用の減少により 0.7億円(同 ▲3億円の減少)。

○ 自己資本・自己資本比率



○ 金融再生法開示債権



○ 与信関連費用(▲は戻入＝益超)

(※)一般貸倒引当金繰入額＋不良債権処理額－貸倒引当金戻入額

18/3	18/9	19/3	19/9	20/3	前年度比
12	1	4	▲2	0	▲3

8. 2020年度(2021年3月期)の決算予想

○ 2020年度(2021年3月期)は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による不確定要素により、現時点では従来水準での合理的な業績予想の算出が困難なことから未定としております。
今後、その合理的な算出が可能となった時点で速やかに公表いたします。

○ 2021年3月期予想

(億円)

		18/3月期 実績	19/3月期 実績	20/3月期 実績	21/3月期 予想
単 体	経 常 収 益	117	108	113	未定
	経 常 利 益	▲16	2	4	未定
	当 期 純 利 益	▲33	3	3	未定
連 結	経 常 収 益	136	128	134	未定
	経 常 利 益	▲13	5	4	未定
	当 期 純 利 益	▲31	5	4	未定

SBIグループとの連携

福島銀行 × SBIホールディングス 資本業務提携 (19年11月11日)



- ① 「福島銀行バンキングアプリ」提供開始(19年12月)
- ② 「福島銀行SBIマネープラザ郡山」開設(20年1月)
- ③ クラウド型ワークフローシステム「承認Time」「経費Bank II」提供開始(20年1月)
- ④ SBIレミットとの海外送金サービスの提供開始(20年3月)
- ⑤ SBI証券との「リアルタイム入金サービス」提供開始(20年3月)
- ⑥ SBI生命と住宅ローン団信に関する基本合意(20年3月)
- ⑦ アスタミューゼ及びSBIネオファイナンスサービスとの「理系人材」採用支援サービス提供開始(20年3月)

福島銀行とSBIグループの連携強化策 2019年度実績

個人のお客様向け

「福島銀行バンキングアプリ」提供

 SBI NEO FINANCIAL SERVICES



「福島銀行SBIマネープラザ郡山」
共同店舗開始



SBIレミットとの
海外送金サービス提供



SBI証券との
「リアルタイム入金サービス」提供

 福島銀行
×
 SBI証券

SBI生命と住宅ローン団信
に関する基本合意

 SBI 生命

法人・事業主のお客様向け

クラウド型ワークフローシステム

「承認Time」「経費Bank II」提供

承認Time  経費Bank II

アスタミューゼ及び

SBIネオファイナンスサービスーズとの
「理系人材」採用支援サービス提供

 福島銀行 ×  asta muse company ×  SBI NEO FINANCIAL SERVICES

(19年12月23日提供開始)

インターネットを利用しているお客さまの利便性向上に向けて「福島銀行バンキングアプリ」の提供を開始しました。

○ 主な機能

- アプリから口座開設可能
(来店不要・印鑑不要、通帳レス)
- 家計簿「一生通帳by Moneytree」の利用
- スマホ決済の連動(LINE Payなど)
- お得なキャンペーン情報の受取
- インターネットバンキングの利用
- ローン商品の仮申し込み



福島銀行SBIマネープラザ郡山 (20年1月15日開設)

- ネット証券の最大手であるSBI証券の
金融商品・サービスをより質の高い
アドバイスとともにご利用いただけます。

既存のインターネットチャネル

相乗 × 効果

さらに対面コンサルティング営業



より一層、質の高い
アドバイスの実現

大切な資産に関する
お悩みにワンストップで
ご対応いたします

「ネットとリアル融合」
それが「福島銀行SBIマネープラザ郡山」の魅力です！

福島銀行 × SBI マネープラザ

福島銀行SBIマネープラザ郡山は、福島県を営業基盤として地域密着型金融を展開する<株式会社福島銀行>と、SBIグループ唯一の対面チャネルとして金融サービス事業を担う<SBIマネープラザ株式会社>が協力し、お客さまの資産形成に向けた取り組みの一助となる「最高の金融サービス」を提供するために運営しています。

(主な取扱商品)

- ・国内株式 ・外国株式
- ・仕組債 ・外国債券
- 等

クラウド型ワークフローシステム「承認Time」

(20年1月20日提供開始)

○地域企業の業務効率・生産性の向上への課題解決

- 地域の中小企業さま向けにIT活用による業務効率化や生産性向上のため、低コストかつ短期間で導入できるサービスを提供。

「申請」から「承認」「保管」まで意思決定をスピードアップ



- 「承認Time」とは、社内のあらゆる書類の申請、承認、回覧、保管を電子承認フローに載せられるクラウド型ワークフローシステム。

スマートフォン・タブレット
からアクセス



業務効率・生産性の向上

SBIレミットとの海外送金サービス

(20年3月2日サービス開始)

○ 地方企業の人手不足を補う担い手の外国人労働者の方々の 送金サービスをサポート

- 地域の中小企業さまは、労働者不足を補うためアジア諸国などから技能実習生を中心とした外国人労働者を抱えており母国送金のニーズがあります。



申込キットは7種類

- ・ベトナム
- ・中国
- ・ネパール
- ・英語
- ・フィリピン
- ・インドネシア
- ・ミャンマー



Finance
Technology



FinTech

- SBIレミットは、在留外国人の方々の送金を中心とした金融サービスを提供しており、分散台帳技術(ブロックチェーン)を利用した送金など新しい金融テクノロジーを積極的に取り入れ、利便性の高い金融サービスを提供することで送金実績を伸ばしています。

事業活動を通じた地域貢献

○ ふくぎん「ふくしま応援寄付型私募債」(2018年7月17日～)

私募債の発行を通じて、尾瀬の自然環境保護
および地域創生・地域経済の支援にご賛同いた
だいた法人のお客さまを対象にした私募債

27件 22億4千万円を受託
(2020年3月末現在)

2019.11.1三育幼稚園へ寄贈
教育図書一式



○ ふくぎん「SDGs防災・減災のための寄付型私募債」(2019年11月5日～)

私募債の発行を通じて、地域全体の
レジリエントな防災・減災機能の強化、
防災リテラシーの向上、被災者の支援に
ご賛同いただいた法人のお客さまを対象に
した私募債

15件 15億4千万円を受託
(2020年3月末現在)

2020.2.18 防災・減災機能の強化のため
福島県へ寄贈



地域貢献の取り組み

○ 障がい者施設製品大展示即売会

障がいをお持ちの方々の自立をサポートすることを目的として
福島銀行 本店 地下大ホールにて開催。

- 2019年12月13、14、15日(3日間)
- 実績回数 8回(2012年～)
- 来場者数 約4,000名
- 売上金額 約500万円



○ 各種活動への助成金を贈呈

○ 「公益信託福島銀行ふるさと自然環境基金」

- 実績回数 28回(1992年～)
- 助成先数 72先(累計)
- 助成金額 1,682万円(累計)

○ 「ふくぎんみんなのサポート市民活動助成金」

- 実績回数 8回(2012年～)
- 助成先数 33先(累計)
- 助成金額 330万円(累計)



11. 当行のプロフィール

2020年3月末

本社所在地	福島県福島市万世町2番5号
電話番号	024-525-2525(代表)
設立年月日	1922(大正11)年11月27日
資本金	186億円
株主数	14,250名
従業員数	665名(うち正社員510名)
店舗数	57店舗(5出張所、2ソリューションプラザ、 1ローンプラザ、1ネット支店含む) 共同店舗 SBIマネープラザ郡山
預金残高	7,181億円
預かり資産	814億円
貸出金残高	5,580億円(私募債含む)
自己資本比率	7.89%(単体)
金融再生法開示債権比率	1.79%
連結子会社	(株)ふくぎんリース (株)福島カードサービス (株)東北バンキングシステムズ 福活ファンド投資事業有限責任組合

(お問い合わせ先) 株式会社福島銀行 総合企画部 猪股徹也、市川清人 TEL:024(525)2525 FAX:024(536)5338

本資料には、将来の業績に係る記述が含まれております。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより異なる可能性があることにご留意ください。